

広島大学学術情報リポジトリ

Hiroshima University Institutional Repository

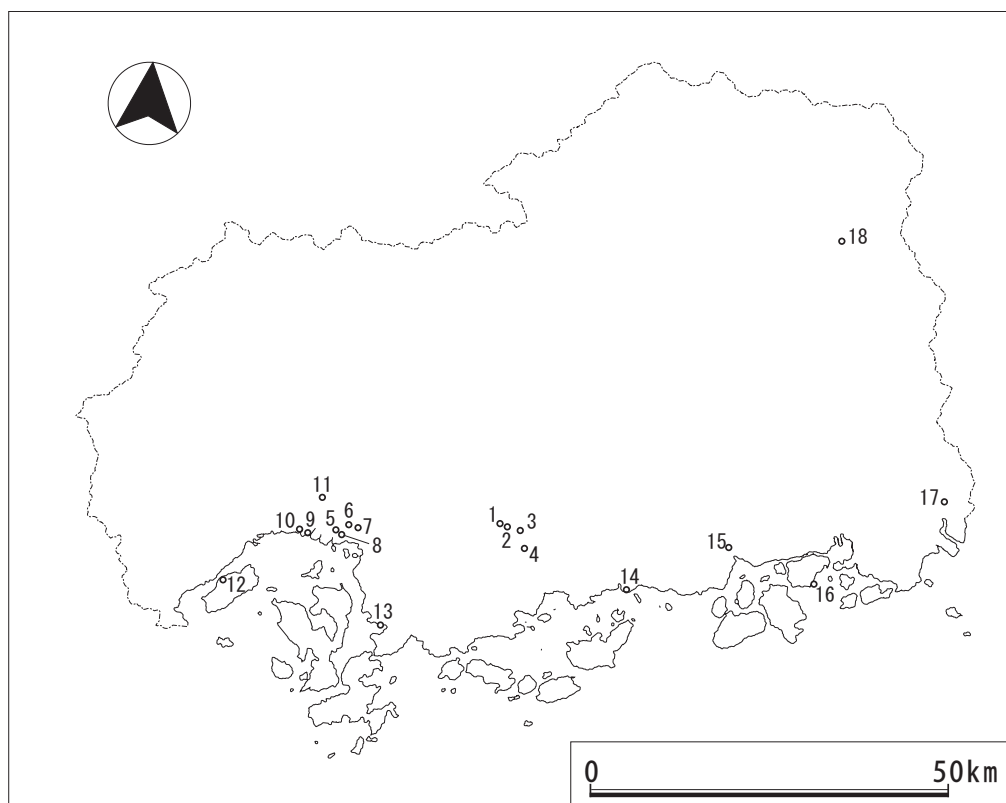
Title	開発に伴う協議と立会・試掘調査の概要（2022年度）
Author(s)	広島大学総合博物館埋蔵文化財調査部門,
Citation	広島大学埋蔵文化財調査研究紀要 , 15 : 15 - 47
Issue Date	2024-03-31
DOI	
Self DOI	10.15027/55041
URL	https://doi.org/10.15027/55041
Right	
Relation	



開発に伴う協議と立会・試掘調査の概要（2022年度）

1. はじめに

広島大学が所管する広島県内の施設所在地は、本部キャンパスが位置する東広島市および統合移転する以前に本部キャンパスなどが所在した広島市を中心に広島県各地に分散しており、合計 26 ヶ所を数える（大学・附属学校校舎等を中心とする敷地 7 ヶ所、研究所等施設敷地 8 ヶ所、課外活動施設敷地 3 ヶ所、職員宿舎敷地 7 ヶ所、その他 1 ヶ所）（第 7 図）。これら大学関連施設において 2022 年度の埋蔵文化財に関連した開発事業に伴って 43 件の協議を行った（学内協議のみ 27 件、協議書提出 9 件、発掘届 7 件）。このほ



第 7 図 広島大学の校地所在地図（職員宿舎・その他を除く）

1. 東広島地区
2. サイエンスパーク地区
3. 西条三永地区
4. 下三永地区
5. 東千田地区
6. 霞地区
7. 東雲地区
8. 翠地区
9. 観音地区
10. 庚午南地区
11. 三滝地区
12. 宮島地区
13. 呉地区
14. 竹原地区
15. 三原地区
16. 向島地区
17. 春日地区
18. 帝釈末渡地区

第2表 2022（令和4）年度広島大学における開発に伴う埋蔵文化財協議・発掘届一覧

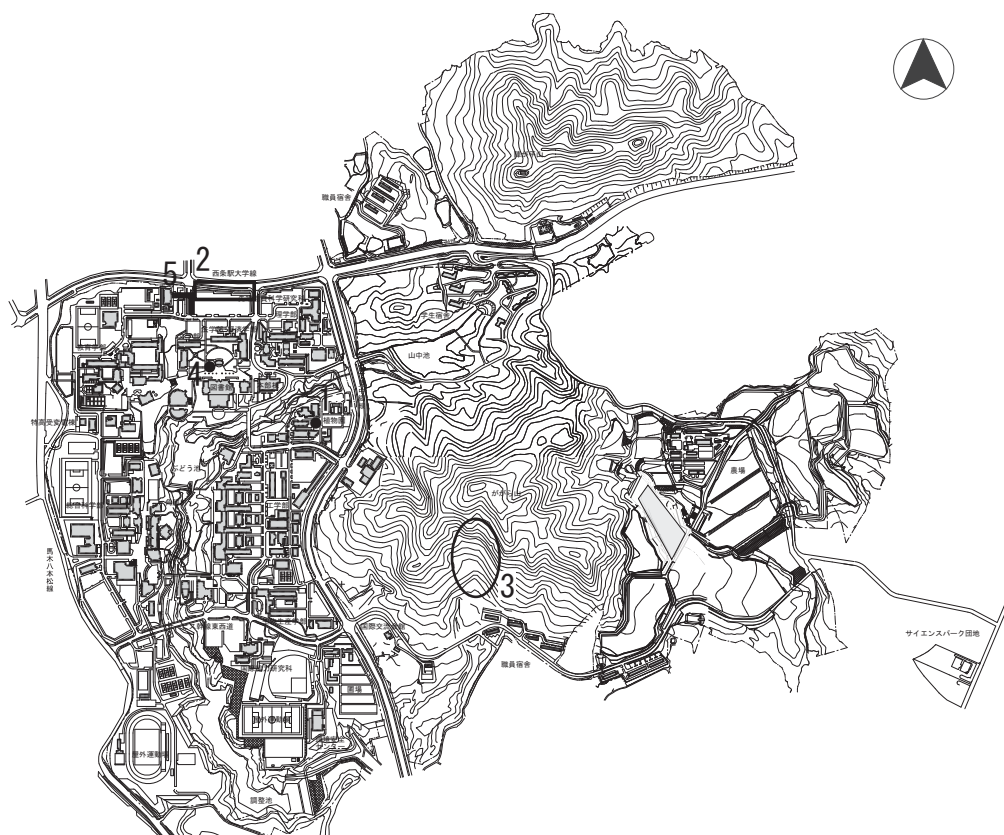
件名	対象面積	協議書・発掘届提出日	対応	
東広島地区				
1	令和3年度公共交通網形成事業交通結末点整備*	2,556.2 m ²	2022年1月	立会
2	(東広島) Jイノベ用地地盤調査	3 m ²	2022年4月	工事
3	(東広島) Jイノベ棟新営工事	497.21 m ²	2022年4月	試掘
4	(東広島) ナノデバイスバイオ融合科学研究所周辺外構工事	66.4 m ²	2022年4月	工事
5	広島大学がら山実証実験プロジェクト南斜面調査機器設置工事 [◎]	約1 m ²	2022年4月	立会
6	(東広島) 東西道歩道補修工事	208 m ²	2022年5月	工事
7	(教) 研究棟B北側教材園修理	484.1 m ²	2022年5月	工事
8	ビニルハウス設置	300 m ²	2022年5月	工事
9	(東広島) 管理棟等接地極取設	12 m ²	2022年6月	工事
10	文学部移築石棺調査	12 m ²	2022年6月	工事
11	(東広島) 山中歩道補修	15.4 m ²	2022年6月	工事
12	(東広島) 広大中央口交通結節点モニュメント設置工事	26 m ²	2022年9月	立会
13	(サイエンス) イノベーションプラザ駐輪場取設工事	208 m ²	2022年9月	工事
14	(東広島) 附属幼稚園埋設給水管漏水修理	約4 m ²	2022年9月	工事
15	(東広島) 生物生産学部研究棟A 1～4階改修工事	約441.7 m ²	2022年10月	工事
16	(東広島) 生物生産学部4号圃溜め池整形補修及び5号圃水田土入替排水溝設置補修	305 m ²	2022年11月	工事
17	(西条三永) 体育器具庫埋設給水管漏水修理	約8 m ²	2022年11月	工事
18	(東広島) 広大中央口交通結節点モニュメント設置工事(場所変更)	約12 m ²	2022年12月	立会
19	(東広島) 広大中央口交通結節点整備工事(給排水管敷設)	約106 m ²	2022年12月	立会
20	(東広島) 環境整備(北口ゲート周辺道路舗装)工事	約790 m ²	2023年1月	工事
21	(東広島) カーポート設置	約10 m ²	2023年1月	工事
22	(工)F2・3棟屋外排水管改修	約6.8 m ²	2023年2月	工事
23	(国際) 石碑移設	約5.4 m ²	2023年2月	工事

24	(東広島) 生物生産学部研究棟A 1~4階改修工事	約 653 m ²	2023 年 2 月	工事
25	(国際) 自立サイン基礎設置	3.71 m ²	2023 年 2 月	工事
26	(東広島) ナノデバイス研究所西側駐車場周辺道路舗装	248 m ²	2023 年 3 月	工事
27	(工) D1 棟埋設上水給水管漏水修理	4 m ²	2023 年 3 月	工事
28	(東広島) 環境整備 (南グラウンド防球ネット等) 工事	30 m ²	2023 年 3 月	工事
29	次世代無線通信システム (ローカル 5G) 一式	約 1.5 m ²	2023 年 3 月	工事
霞地区				
1	(病) たんぽぽ保育園開閉式日よけシート取設工事*	43.2 m ²	2021 年 12 月	立会
2	動物実験施設新営工事*	1,546 m ²	2021 年 6 月	立会
3	講義棟新営工事における外構工事 [○]	2,522 m ²	2022 年 7 月	立会
4	(霞) 緑風会事務所横自動販売機設置 [○]	2.6 m ²	2022 年 8 月	工事
5	(霞) 臨床管理棟北室外機基礎取設 [○]	約 2 m ²	2023 年 1 月	工事
6	(霞) 放射線影響研究所新棟建設に伴う地盤調査 [○]	約 0.1 m ²	2023 年 3 月	工事
東千田地区				
1	(東千田) 校舎新営設備その他工事 (本体)	約 2,341 m ²	2022 年 1 月	立会
翠地区				
1	(翠) 外部バレーコート補修	280 m ²	2022 年 6 月	工事
東雲地区				
1	広島大学 (東雲) 擁壁等補修	2 m ²	2022 年 6 月	工事
竹原地区				
1	(竹原) 合併排水処理槽設置工事	105 m ²	2022 年 6 月	立会
三原地区				
1	(三原) 法面勾配改良工事 [○]	40 m ²	2022 年 6 月	立会
2	(三原) 警備員室空調用電源等取設工事 [○]	10 m ²	2023 年 1 月	立会
春日地区				
1	(春日) 基幹整備 (屋外給水管等) 工事	441.7 m ²	2022 年 6 月	工事
2	(春日) 中・高校舎守衛待機 Box 電源工事	5.4 m ²	2022 年 12 月	工事
3	(春日) 体育館屋外排水管修理	約 39.75 m ²	2023 年 3 月	工事

宮島地区				
1	アスファルト補修工事	約 35 m ²	2022 年 11 月	工事
2	側溝・排水樹・排水溝補修工事	約 25 m ²	2022 年 11 月	立会

※ 件名の最後に*印を付したものは、昨年度協議済みの工事である。

※ 件名の最後に◎印を付したものは、今年度発掘届を提出した工事である



第 8 図 2022 年度東広島地区の立会調査位置図（縮尺 1 : 20,000）

- (1) Jイノベ棟新営工事（試掘調査）、2. 令和 3 年度公共交通網形成事業交通結节点整備、
3. 広島大学がら山実証実験プロジェクト南斜面調査機器設置工事、
4. 広大中央口交通結节点モニュメント設置工事、5. 広大中央口交通結节点整備工事（給排水管敷設）

かに、昨年度協議済で本年度立会調査を実施したものが、東広島地区で 1 件、霞地区において 2 件ある。

東広島市内のキャンパスの開発に伴う埋蔵文化財協議は、周知の遺跡を除き、すべて総合博物館（埋蔵文化財調査部門）から回答を行い、4 半期ごとに東広島市教育委員会に協議の内容と回答を報告する形で進めている。2022 年 7 月より、霞地区全域が周知の

遺跡となったため、霞地区の開発工事に伴い発掘届（文化財保護法第93条）を提出することとなった。発掘届は、東広島地区・三原地区・霞地区をあわせ、合計7通であった。

本年度の開発事業については、協議回答等に基づき、東広島地区において1件の試掘調査を、立会調査は合計12件10.3日分実施した。東広島地区では5件2.3日の立会調査を実施した。東広島地区の試掘・立会調査では、遺構・遺物ともに検出されなかった。霞地区では3件4.1日の立会調査を実施した。たんぼぼ保育園日よけシート取設工事、講義棟新営工事に伴う立会調査では、これまでに確認された遺構を再度検出した。遺構の記録を進めることによって、工事の際の遺構保護につなげられると考えられる。東千田地区で1件0.4日、竹原地区で1件2日、三原地区で2件1.5日の立会調査を行った。宮島地区では、2件の協議があり1件の立会調査を予定していたが、工事が翌年度に持ち越されたため、立会調査は実施していない。

2. 試掘・立会調査の概要

次に、地区ごとに、試掘調査および立会調査の概要について述べる。

東広島地区（東広島市）

1)（東広島）Jイノベ棟新営工事（試掘調査）

所在地 東広島市鏡山一丁目5番

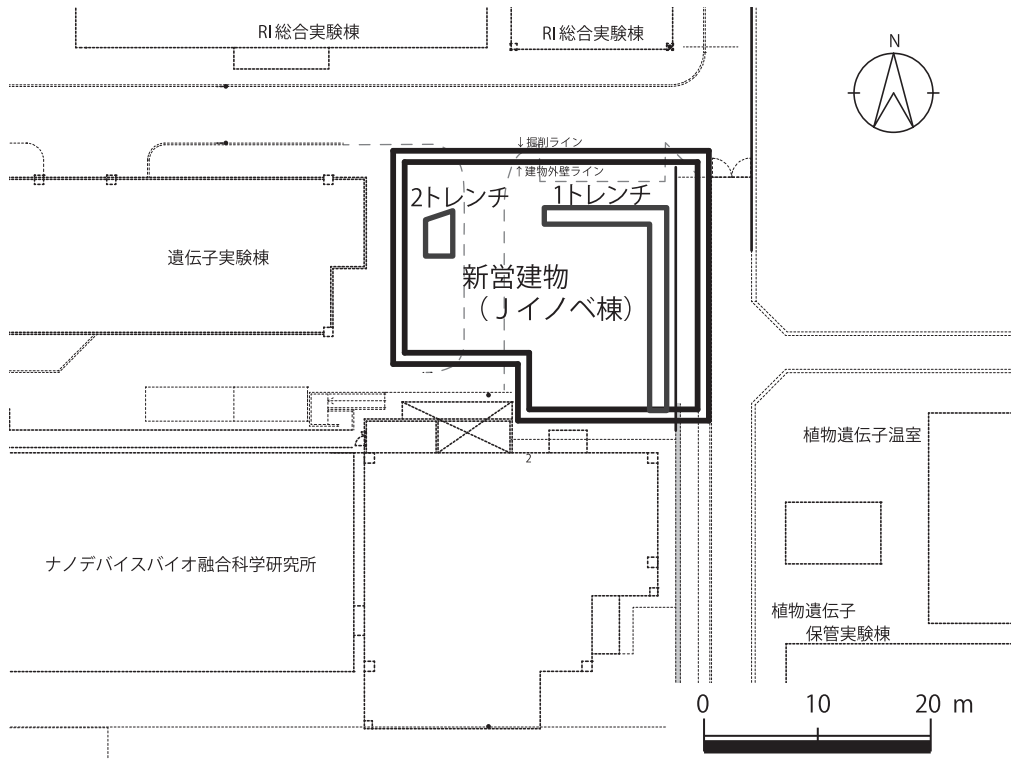
調査期間 2022（令和4）年5月26日（立会調査：9月5日、7・8・12日）

調査面積 497.21 m²

調査者 川島尚宗・梅本健治

調査概要 現地形と旧地形を比較したところ、標高がほぼ同じであることがわかり、旧地形が残存している可能性が考えられた。旧地形では、東から西に向かって谷が存在しており、これを埋める形で現在の平坦面が形成されている。工事に先立って行われたボーリング調査および大学造成時のボーリングデータを参照すると、この谷地形を反映した結果が得られている。工事予定地は、東側に山中池南遺跡第1地点が存在し、同じ丘陵から延びる緩斜面・平坦面の先端部分に相当すると考えられる。そのため、旧地形が残存している場合には、遺跡が存在する可能性が高いと判断された。総合博物館運営委員会埋蔵文化財調査専門委員会において審議したのち、試掘調査を行うこととなった。

開発予定地は現況が草地となっている。本体工事予定地および隣接する箇所にて2本のトレンチを設定した（第9図、写真7-1）。L字状の1トレンチは、南端より掘削を進め、旧地形図との重ね合わせで予想された谷部分の検出を試みたが、地表下1.6mで地山層に



第9図 Jイノベ棟新営工事に伴う試掘調査 トレンチ配置図

到達し、明瞭な谷部は確認されなかった。旧地形の表土および予想された遺物包含層や遺構面などは確認できなかった。トレンチ南端部ではさらに地表下2.8mまで掘削したものの、やはり造成土と直下の地山層のみ検出された（写真7-2～5）。その後、北方向、西方向へ1トレンチの掘削を進めたが（写真7-6）、地山層の直上に厚さ1.05～1.8mの造成土が堆積していた（写真8-1・2）。このため、旧地形の表土や遺物包含層は、キャンパス移転時以降の整地などによりすでに失われていると判断される。また、地山検出面については精査をおこなったものの、遺構と思われる痕跡は確認できなかった。本体工事予定地と通路をはさんで西側に設けた2トレンチでは、東西2.4m、南北4mの規模を掘削した。地表下0.35mではほぼ全面にコンクリート面が検出された（写真8-3・4）。当該地点もすでに削平されていると判断し、調査を終了した。

試掘調査の結果を埋蔵文化財調査専門委員会にて再度審議し、工事を進めることとなった。しかしながら、建物本体の工事による掘削が深いことから、引き続き、工事の際に立会調査を実施した。立会調査では、広い範囲で掘削が行われたものの、遺物・遺構は検出されなかった。



7-1 1トレンチ掘削前状況（南より）



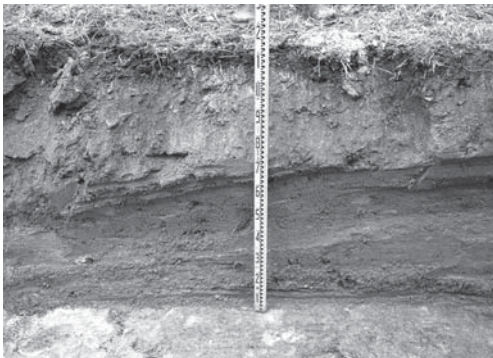
7-2 1トレンチ南端部西壁（北東より）



7-3 1トレンチ南端部西壁（東より）



7-4 1トレンチ東側（北より）



7-5 1トレンチ東側西壁（東より）

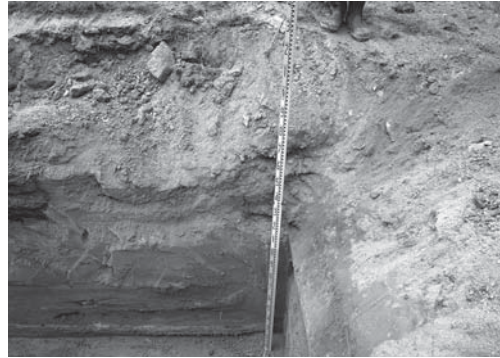


7-6 1トレンチ西側（東より）

写真7 Jイノベ棟新営工事に伴う試掘調査（1）



8-1 1 トレンチ西側南壁中央部
(北より)



8-2 1 トレンチ西端部南壁 (北より)



8-3 2 トレンチ掘削後状況 (南より)



8-4 2 トレンチ掘削後状況 (北より)

写真 8 Jイノベ棟新営工事に伴う試掘調査 (2)

2) 令和3年度公共交通網形成事業交通結束点整備

所在地 東広島市鏡山一丁目1番2号、2番1号

調査期間 2022 (令和4) 年5月30日、8月4日、9月21日、11月15日

調査面積 2,556.2 m²

調査者 川島尚宗

調査概要 広島大学中央口バス停付近から広島大学北第3駐車場にかけて、バス停の拡張・改修工事が行われ、バス待機場所、待合室などが設けられることとなった。あわせて、擁壁や配管工事などが行われるため、各所で掘削が行われる計画であった。当該地点の旧地形図をみると、北側に向かって緩い斜面を形成し、いくつかの谷が存在していた。当該地点ではこれまで調査が行われておらず遺跡の有無は不明であったが、今回の工事の



9-1 待合室部分掘削状況（東より）



9-2 待合室部分掘削状況（南西より）



9-3 駐車場との隣接部掘削状況（北西より）



9-4 配管部掘削状況（北東より）



9-5 西端部管路掘削状況（南より）



9-6 西端部管路西壁（北東より）

写真9 令和3年度公共交通網形成事業交通結末点整備に伴う立会調査

掘削が深く、広大郵便局西遺跡が存在することから、立会調査を実施することとした。

工事区域の西側にあたる建物基礎部分では、平面五角形で-170cmまで掘削が行われた(写真9-1・2)。すべての壁面において、造成土のみが確認された。バス停と駐車場の境界には擁壁が設置された。駐車場の地表面から約125cm、歩道側の地表面から約65cmの掘削が行われたが、すべて造成土の範囲内であった(写真9-3)。工事区域の西端では、深さ約100cm、幅約100cmの規模で管路の掘削が行われたが、すべて造成土の範囲内であった(写真9-5・6)。

本工事では、歩道の地表面から最大で170cmの掘削がおこなわれたが、遺構・遺物は検出されなかった。広い範囲で深さ約100cm程度の掘削があったものの、同様に造成土の範囲内であった。旧地形がこれ以下の深さに残っている可能性はあるため、今後の掘削については慎重に対応する必要があると考えられる。

3) 広島大学ががら山実証実験プロジェクト南斜面調査機器設置工事

所在地 東広島市東広島市鏡山二丁目350番

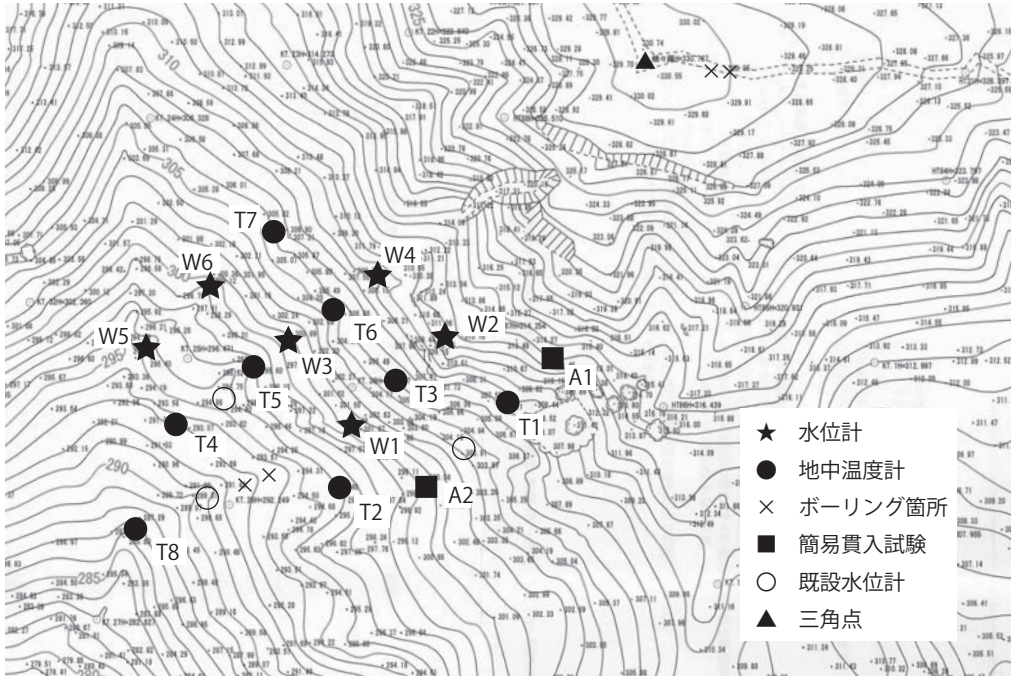
調査期間 2022(令和4)年6月27日

調査面積 約1㎡

調査者 川島尚宗

調査概要 ががら山実証実験プロジェクト南斜面調査機器設置工事にともない、立会調査を実施した。東広島市教育委員会に遺跡範囲を確認したところ、工事地点のうち、T2とT8を除くすべてが周知の遺跡の範囲内であった。すでに設置した機器類に追加し、水位計の設置および簡易貫入試験を行い、地中温度計の設置も行った。水位計設置箇所では単管(直径約50mm)を打ち込んでできた穴に、塩化ビニール管を設置し、その中に水位計を挿入した。簡易貫入試験では直径25mmの鉄製コーンを打ち込んだ。その後、径18mmの塩ビ管を設置し地中温度計を挿入した。

はじめにT8地点にて、簡易貫入試験の立会調査をおこなった(写真10-1)。当地点では、鉄製コーンが124cmの深度まで打ち込まれ、地中温度計が設置された。T8地点は、水の流れる沢状地形であり、単管で採取された土を観察したところ、腐植土のほか、地山と思われる真砂土が掘削に伴って採取された。続いて、W1地点(昨年度ボーリング調査地点の北東側)において単管打ち込みと水位計の設置がおこなわれた。打ち込み深度は168cmであった。斜面部のW1地点では、打ち込まれた単管内部の土を観察したところ、腐植土と真砂土が確認された(写真10-2)。塩化ビニール管を挿入し、水位計を設置した。同様の作業において遺物・遺構を確認できる見込みがないと判断されたため、立会調



第 10 図 ががら山南斜面地下水水位計・地中温度計設置箇所



10-1 ががら山調査機器設置 T8 (南西より)



10-2 ががら山調査機器設置 W1 (西より)

写真 10 ががら山実証実験プロジェクト南斜面調査機器設置工事に伴う立会調査

査を終了し、後日作業の報告を業者より受け取ることとした。各地点の打ち込み深度のみ
列挙すると、A1 が 166cm、A2 が 75cm、T1 が 205cm、T2 が 138cm、T3 が 166cm、T4
が 386cm、T5 が 176cm、T6 が 68cm、T7 が 83cm、T8 が 124cm、W1 が 168cm、W2 が
110cm、W3 が 105cm、W4 が 130cm、W5 が 151cm、W6 が 212cm、であった。

4) (東広島) 広大中央口交通結節点モニュメント設置工事

所在地 東広島市鏡山一丁目 2 番 2 号

調査期間 2022 (令和 4) 年 12 月 13 日

調査面積 約 12 m²

調査者 川島尚宗

調査概要 当初の計画では広島大学中央バス停にモニュメントを設置する計画であった
が、別の石碑が設けられることとなったため、場所を変更してモニュメントを設置した。設置
場所は、図書館北側の芝生部分である (写真 11-1)。

掘削範囲は南北 2.2m、東西 6.2m であった (写真 11-2)。掘削深度は 85cm で、真砂
土系の造成土のみが確認され、遺構・遺物は検出されなかった。2021 年度に中央図書館
北東側にシェルターが設置されたが、その際の掘削においても地表下 90cm 程度までは造
成土であった。図書館北側周辺は、少なくとも地表下 1m 程度までは大学移転時に広範囲
に削平されていると考えられる。

5) (東広島) 広大中央口交通結節点整備工事 (給排水管敷設)

所在地 東広島市鏡山一丁目 1 番 2 号、2 番 1 号



11-1 掘削開始状況 (西より)



11-2 掘削完了状況 (南東より)

写真 11 広大中央口交通結節点モニュメント設置工事に伴う立会調査



12-1 管路掘削開始状況（南より）



12-2 南北管路掘削状況（北西より）



12-3 南北管路東壁（西より）



12-4 東西管路掘削状況（南西より）



12-5 東西管路掘削状況（北東より）



12-6 柵設置部掘削状況（東より）

写真 12 広大中央口交通結節点整備工事（給排水管敷設）に伴う立会調査

調査期間 2022（令和4）年12月13・17日

調査面積 約106㎡

調査者 川島尚宗

調査概要 広大中央口交通結節点整備に関連して、広大郵便局の南側に給配水管が敷設されることとなった。当工事地点は、広大郵便局西地点に隣接することから、立会調査を実施することとした。大学入り口ゲートの南東側の歩道において、共同溝との接続部から掘削を行い、北方向に管路掘削作業を進めた。共同溝との接続部は深さ約2mまで掘削したが、造成土の範囲内であった（写真12-1）。北に延びる管路部分の掘削は、幅75cm、深さ85cmであった（写真12-2・3）。大学入り口ゲートの北側で管路は西方向へ曲がり、郵便局南側の新規に設置された枿を通じて既設のマンホールに接続された。東西方向の管路は幅60cmで掘削された（写真12-4・5）。管路の掘削は西へ進むほど深くなり、最大で-115cmとなり、枿の掘削部は-145cmであった（写真12-6）。管路・枿のすべてにおいて、造成土のみが確認され、遺構・遺物は検出されなかった。

震地区（広島市）

1)（病）たんぼぼ保育園開閉式日よけシート取設工事

所在地 広島市南区霞一丁目2番3号

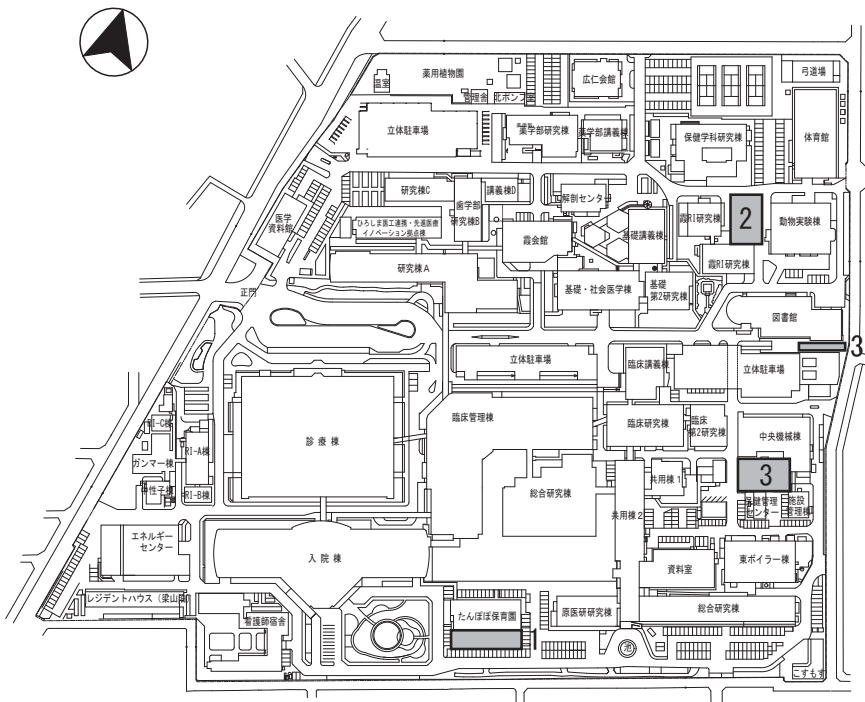
調査期間 2022（令和4）年4月21・22・24日

調査面積 43.2㎡

調査者 川島尚宗

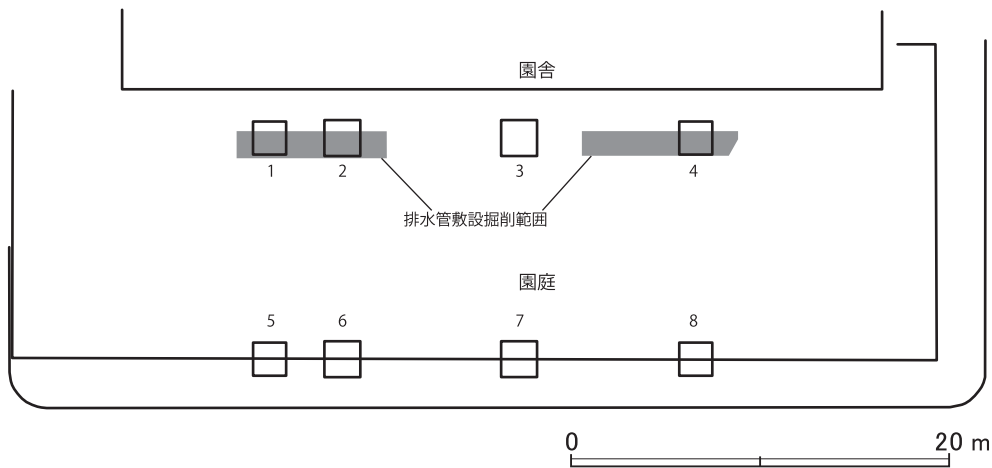
調査概要 本工事は、日差しを避けるため保育園園庭に日除けシートを設置する工事である。規模が大きいため、コンクリート製基礎を8ヶ所に設置し、既設雨水管の盛り替え工事も行われた。当地点では、保育園建設時に兵器補給廠建物のコンクリート床、コンクリート製構築物などが検出されており（当館紀要第14号参照）、園庭の大部分にこれらが現地保存されているため、立会調査を実施した。

基礎設置地点については、北西隅より東へ基礎1～4、南西隅より基礎5～8とする。基礎1では、地表面から-52cmまで掘削が行われた。-32cmまで真砂土の表土で、これ以下はバラスを多く含む造成土であった。基礎2でも同様に造成土のみが確認された。基礎3では、-57cmでコンクリート床と階段状遺構の上面が検出された。これらは、既報告の遺構である。階段部分は幅101cmをはかり、西壁の厚さは15cmであった。東壁上面には、端から5.5cm離れて幅9cm、高さ2cmの帯状の段差が設けられていた。地表面から



第 11 図 2022 年度震地区立会調査位置図 (縮尺 1 : 5,000)

(1. たんぽぽ保育園開閉式日よけシート取設工事、2. 動物実験施設新営工事、3. 講義棟新営工事における外構工事)



第 12 図 日よけシート基礎掘削位置 (縮尺 1 : 400)



13-1 基礎 1 (東より)



13-2 基礎 2 (西より)



13-3 基礎 3 (東より)



13-4 基礎 3 階段状遺構 (南西より)



13-5 基礎 3 (東より)



13-6 基礎 4 コンクリート床 (南西より)

写真 13 たんぽぽ保育園日よけシート取設工事に伴う立会調査 (1)



14-1 基礎 4 (南西より)



14-2 基礎 4 (南より)



14-3 基礎 5 (東より)



14-4 基礎 6 (南西より)



14-5 基礎 7 (北より)



14-6 基礎 8 (北より)

写真 14 たんぽぽ保育園日よけシート取設工事に伴う立会調査 (2)

深さ 80cm まで、西壁上部が解体された。雨水排水管敷設においては、枘部分のみ、径 30cm ほどコンクリート床を破碎した。コンクリート床には、床上面から 16cm 下に鉄筋が含まれていた。基礎 4 では、-54cm でコンクリート床が検出された。基礎設置のための深さを確保するため、一部は基礎設置のために解体された。はつり作業の際にコンクリートを観察したところ、径 2 ～ 8cm の円礫が含まれていた。基礎 4 では雨水排水管の敷設が行われたが、コンクリート床を破壊せず、上部に敷設することができた。基礎 4 掘削時の北壁を観察したところ、園舎南側の犬走り下部にも補給廠建物のコンクリート床があることが確認された。

園庭南西側の基礎 5 では電線、塩ビ管が検出され、すべて造成土の範囲であった。南壁で、補給廠のコンクリート床が観察された。基礎 6 ではコンクリート床に鉄筋が含まれていることが確認できた。地表面より -45 ～ -61cm に 20cm ほどの大きさの角グリ層が観察された。基礎 7・8 においては、保育園南側のアスファルト面から -28cm でコンクリート床が確認された。基礎 7 掘削部の北西角は過去の工事で破碎されており、断面にて鉄筋を確認した。

立会調査では、過去に検出した補給廠の遺構を確認することができた。その遺構は、園者南端から園庭にかけて残存していると考えられ、掘削の際には注意が必要となる。遺物は出土しなかった。

2) 動物実験施設新営工事

所在地 広島市南区霞一丁目 2 番 3 号

調査期間 2022 (令和 4) 年 4 月 22 日

調査面積 1,546 m²

調査者 川島尚宗

調査概要 2021 年度の試掘調査・立会調査に引き続き、本体部分の掘削に伴う立会調査を実施した。地表面より -160cm まで掘削したが、これまでの調査結果から予想された通り、すべて埋め戻し土の範囲内であった (写真 15-1)。しかしながら、旧 1 号館 (第 1 兵器庫) レンガ積基礎の下部に配置されている松材・松杭は残存していると考えられ、これよりも深く掘削する場合には立会調査が必要となる。

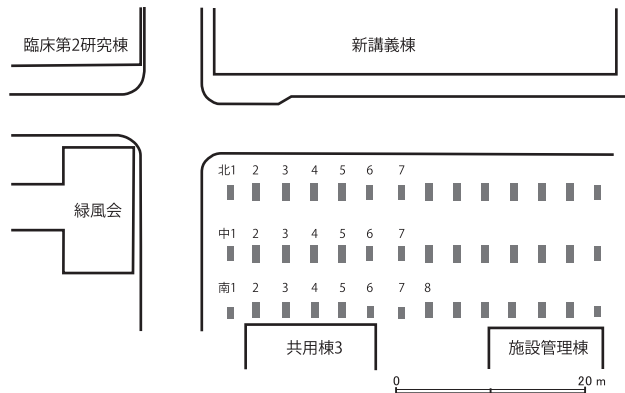
3) 講義棟新営工事における外構工事

所在地 広島市南区霞一丁目 2 番 3 号

調査期間 2022 (令和 4) 年 9 月 15・21・22 日、10 月 3 日

調査面積 24 m²

調査者 川島尚宗



第 13 図 新講義棟南側駐輪場屋根基礎配置図（縮尺 1 : 800）

調査概要 講義棟新営に伴い、周辺の駐輪場が整備されることとなった。昨年度に検出されたコンクリート構築物の位置に近いため、立会調査を実施した。

霞図書館の南側では、駐輪場屋根の基礎掘削がおこなわれた。掘削深度は地表面から -70 ~ -90cm であった。基礎は 11 ヶ所あり、東側から掘削が進められた。1は南北 300 × 東西 210cm を掘削し、東壁で真砂土が確認された。地表面から -57cm 以下は、補給廠の造成土と考えられる。基礎掘削の南北はすべて 300cm であったため、以下、東西幅のみ記述する。2 は東西 210cm を掘削し、東壁で陶磁器などを含む粘質暗褐色土の堆積がみられた。3 は東西 195cm を掘削し、東壁において、地表下約 35cm で円礫を含むコンクリートが検出された。コンクリートは厚さ 20cm で、下部に 20cm 大の角礫が敷かれていた。コンクリートは、3 の北壁から南へ 170cm まで続き、その南側は真砂土層であった。4 は東西 195cm を掘削し、東壁全体に真砂土が堆積した状態であった。西壁では、地表下約 45cm で細長い板状の金属部材 2 本を検出した。両者とも、幅 65mm、厚さ 5mm であり、南側の部材には金具状の部品が確認できた（写真 16-1）。金属部材の下部には、径 3 ~ 4cm の円礫層が 10 ~ 15cm 堆積しており、その下に 15 ~ 20cm の角礫が並べられていた。5 は東西幅 180cm である。東壁で円礫を含むコンクリートが地表面下 40cm で検出された。コンクリート下部は 4 の西壁の構造と類似するが、金属部材は確認できなかった。コンクリートは、北壁から 62cm の位置より南北に 111cm 確認された。6 は東西幅 195cm であった。南北に既設鋼管が通っており、鋼管の下には平滑面をもつコンクリートが敷かれていた。北西部 1/4 の範囲において、このコンクリート面の上部に、円礫を含むコンクリートが厚さ最大 35cm 堆積していた。コンクリート面は破碎していないので、厚さ・時期などは不明であるが、



15-1 杭設置箇所確認（南より）



15-2 駐輪場屋根基礎掘削状況（東より）



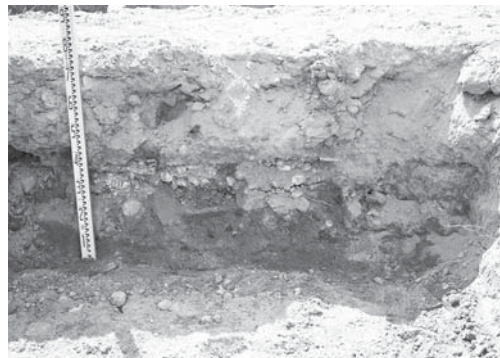
15-3 駐輪場屋根基礎 1（西より）



15-4 駐輪場屋根基礎 2（西より）



15-5 駐輪場屋根基礎 3（西より）



15-6 駐輪場屋根基礎 4（東より）

写真 15 動物実験施設新営工事・講義棟新営工事における外構工事に伴う立会調査（1）



16-1 金属部材 (東より)



16-2 駐輪場屋根基礎 5 (北より)



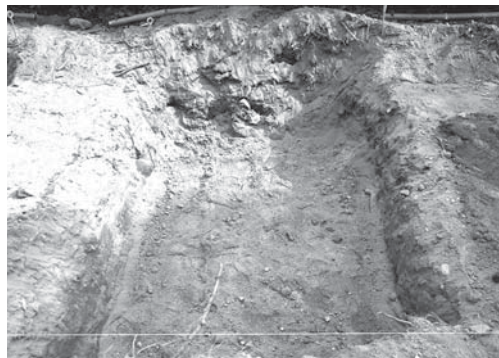
16-3 駐輪場屋根基礎 6 (北より)



16-4 駐輪場屋根基礎 7 (北西より)



16-5 駐輪場屋根基礎 8 (北西より)



16-6 駐輪場屋根基礎 9 (北より)

写真 16 講義棟新営工事における外構工事に伴う立会調査 (2)



17-1 駐輪場屋根基礎（南列）掘削状況（西より）



17-2 駐輪場屋根基礎北5（南東より）



17-3 コンクリート構築物（南より）



17-4 駐輪場屋根基礎北1～4（南東より）



17-5 はつり作業（南より）



17-6 コンクリート構築物より出土したボルト

写真 17 講義棟新営工事における外構工事に伴う立会調査（3）



18-1 レンガ積み柵検出状況（東より）



18-2 駐輪場屋根基礎南4レンガ積み柵(南東より)



18-3 駐輪場屋根基礎南8レンガ積み柵（東より）

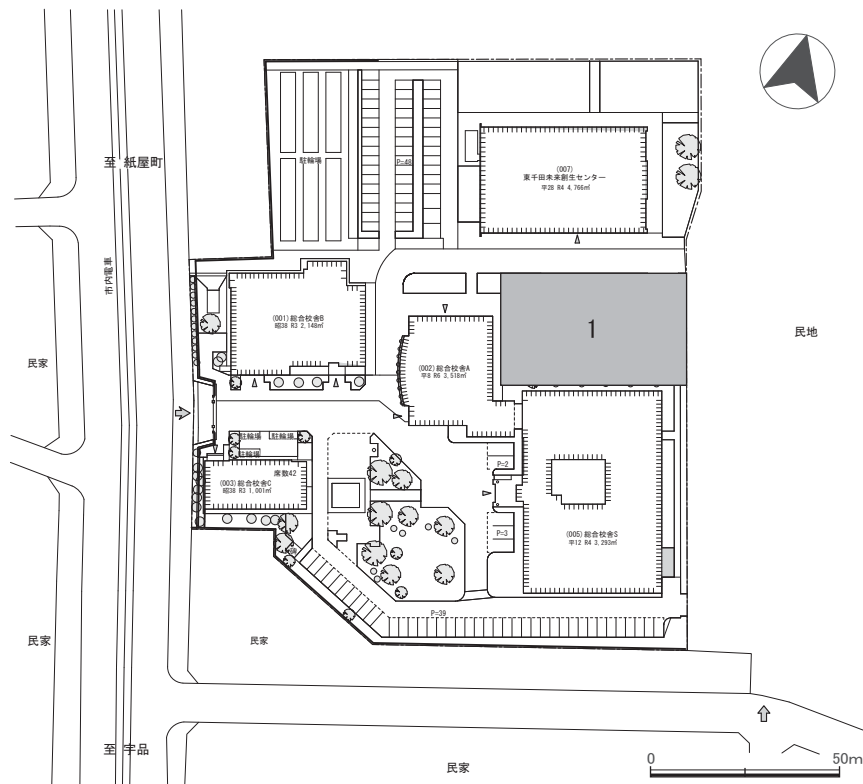


18-4 レンガ積み柵内部（南より）

写真 18 講義棟新営工事における外構工事に伴う立会調査（4）

補給廠に伴う可能性もあるだろう。7～11 はすべて埋め戻し土であった。11 は立体駐車場に近く、矢板 1 枚が出土したので、余掘りの範囲にかかっていると思われる。

新講義棟南側でも駐輪場屋根基礎の掘削がおこなわれた。東西方向に 3 列で掘削されており、それぞれ西より 1 から番号を振ることとする。昨年度おこなわれた中央機械棟解体工事において、車庫基礎の撤去の際にコンクリート構築物が確認されている（当館紀要第 14 号）。今回の工事では、北 5 にて確認された（第 13 図）。北 1～4 は、昨年度解体された車庫の下部に相当し、造成土の範囲内であった。北 5 は南北 285 × 東西 180cm の範囲が掘削され、コンクリート構築物は南西隅より、北へ 135cm、東へ 120cm の範囲が現地表下 55cm で検出された。基礎を設置するためのコンクリート型枠の障害となるため、や



第 14 図 2022 年度東千田地区試掘・立会調査位置図 (縮尺 1 : 1,000)
 (1. 校舎新営設備その他工事 (本体))



19-1 校舎本体部分掘削状況 (北より)



19-2 校舎本体部分掘削状況 (北より)

写真 19 校舎新営設備その他工事 (本体) に伴う立会調査

むを得ず最大 32cm の厚さをはつることとなった。礫が充填されている中央部分より、長さ 32cm、径 2cm のボルトが出土した（写真 17-6）。

中央の列の掘削部は、すべて造成土の範囲内であった。南側の列では、南 4・5・8 にてレンガ積み排水柵が検出された（写真 18）。柵の内部はセメントで整形されており、排水管には鉄筋が含まれていた。レンガ自体は補給廠のものを再利用した可能性も考えられるが、戦後のものと判断し写真での記録にとどめた。

立会調査の結果、補給廠の遺構と考えられるコンクリート構築物が検出され、これに関連する可能性のある部材が出土した。北 5 基礎の南西部には、コンクリート構築物が残存しており、今後の掘削時には注意を要する。

東千田地区（広島市）

1)（東千田）校舎新営設備その他工事（本体）

所在地 広島市中区東千田一丁目 1 番 89 号

調査期間 2022（令和 4）年 5 月 17 日

調査面積 約 2,341 m²

調査者 川島尚宗

調査概要 新校舎新営工事に際し、2021 年度より試掘調査・立会調査を実施した（当館紀要 14 号）。2022 年度は、本体部分の掘削がおこなわれたため、追加の立会調査を実施した。新校舎本体の南西部分を最大で現地表面より 180cm まで掘削した（写真 19-1・2）。すでに、地下障害物撤去などで大部分が掘り返されており、記録すべき遺構などは検出されなかったため、本工事に関しては立会調査を終了した。

竹原地区（竹原市）

1)（竹原）合弁排水処理槽設置工事

所在地 竹原市港町五丁目 8 番 1 号

調査期間 2022（令和 4）年 10 月 3 日・4 日・13 日

調査面積 約 105 m²

調査者 石丸恵利子・川島尚宗

調査概要 竹原地区において、実験・研究棟東側に浄化槽および排水管の敷設工事に伴い立会調査を行った（第 15 図）。浄化槽設置箇所から掘削を開始し、東西（正確な方位は北東－南西であるが、第 15 図の上を北として方向を示す。以下同様。）約 2.7m、南

北約 4.5m、深さ約 2.6m を掘削した（写真 20-1）。堆積層は大きく 5 層に分層でき、西壁面北側で芝地下の堆積状況は以下の通りであった（写真 20-2）。

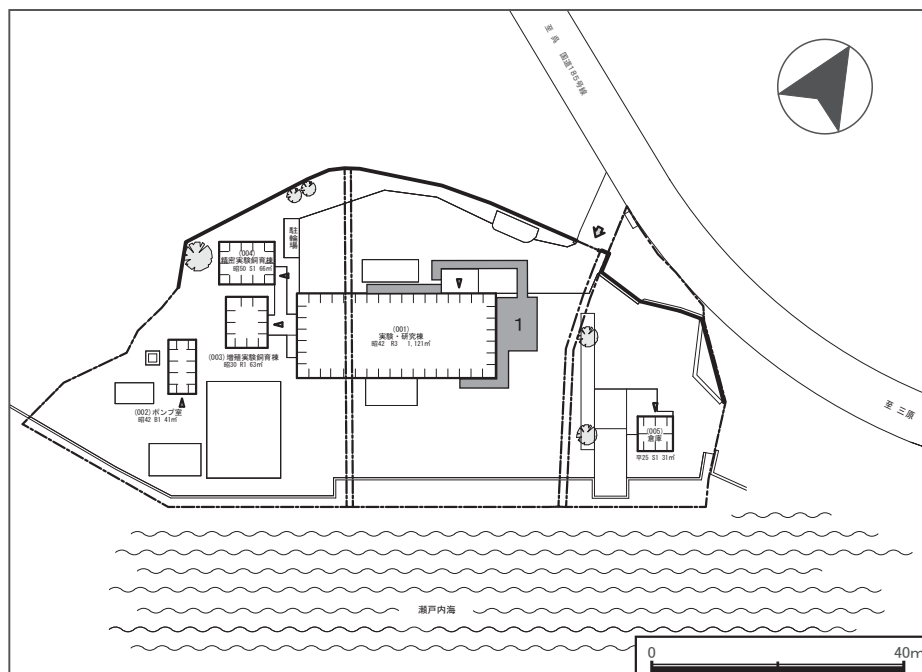
1 層：厚さ約 0.4m で暗い黄褐色土の真砂土、コンクリート片や数センチ角の礫を少量含む。

2 層：厚さ約 0.1m から 0.2m のやや黒みを帯びた茶褐色真砂土で、こぶし大前後の礫、部分的にコンクリート片を含む。現在は使用されていない水道管（塩ビ管）などが残存する。

3 層：厚さ 0.2m 前後で、1 層よりやや白みを帯びた黄褐色真砂土で、南側は 2 層が薄く、3 層が厚く堆積する。3 層は南側で煉瓦を含む赤褐色土に変化する。西側のみで確認され、分層される可能性がある。東壁面では確認できなかった（写真 20-3）。

4 層：厚さ 0.3m から 0.6m 前後で、炭や礫を多く含む黒色の礫層。しまりがかなり緩く、南側がやや厚く堆積する。

5 層：掘削範囲内で厚さ 1.0m から 1.3 m で黒みを帯びた砂層と黄褐色の砂層が互層と



第 15 図 2022 年度竹原地区立会調査位置図（縮尺 1 : 1,200）
（1. 合弁排水処理槽設置工事）



20-1 浄化槽設置箇所掘削風景（北より）



20-2 浄化槽設置箇所完掘後
西壁堆積状況（東より）



20-3 浄化槽設置箇所完掘後東壁堆積状況
（西より）



20-4 屋外排水管敷設箇所北側東端部分
南端のコンクリート面検出状況（南東より）



20-5 屋外排水管敷設箇所北側東端部分の
南側コンクリート面検出状況（東より）



20-6 屋外排水管敷設箇所北側東端部分の
北側コンクリート面検出状況（東より）

写真 20 合弁排水処理槽設置工事に伴う立会調査

なって堆積した状態で、海浜堆積層と考えられる。

現在の的場公園から竹原地区周辺は、1907（明治40）年にできた旅館・海水浴場・娯楽場などからなる的場花壇があった場所であり、江戸期の絵図によると道工氏宅跡であったとされる。的場花壇を撮影した大正5年頃の絵葉書をみると、竹原地区も的場花壇の建物が存在した範囲に含まれる可能性がある。遺物を含んでいないため判断が難しいが、1・2層にはコンクリート片を含むことから昭和の理論物理研究所期（昭和22年に建設された初期庁舎解体後）の整地層、3層には煉瓦片を含むことからの的場花壇後（初期庁舎建設前）の整地層ではないかと考えられる。

南壁面まですべて深さ約2.6mまで掘削し、南壁面5層内の東隅において0.55×0.4×0.4m大の花崗岩の礫が確認された。さらに南側には2層上面相当にコンクリート面（平面的で上面は平滑。厚さもありそうだが、建物基礎ではないと思われる。）が確認されたが、掘削範囲外にも広がり全体は把握できなかつた。遺構、遺物は検出されなかつた。

また、浄化槽につながる屋外排水管敷設部分については、浄化槽設置箇所北側から建物への管路を幅0.6mで掘削した。浄化槽掘削設置箇所掘削部北壁では、最大厚0.08mのコンクリート面が確認された（写真20-4）。コンクリート下部に碎石は確認できず、0.02～0.06m厚の褐色砂層（前述の2層相当）が堆積していた。浄化槽設置箇所南側で検出されたコンクリート面と連続する面であった可能性がある。褐色砂層の下部に、赤みを帯び、レンガ片・炭化物を含む堆積層（前述の3層相当）が確認できた。

浄化槽掘削箇所北壁より北に1.02mで東西方向のコンクリート壁が検出された。前述のコンクリート面はここまで広がりを確認できた（写真20-5）。コンクリート面北端からさらに1.31mの地点で、東西方向に延びるもう1枚のコンクリート壁が検出された（写真20-6）。厚さ0.1mをはかり、同じく鉄筋を含んでいた。両コンクリート面の間には暗褐色砂質土が堆積し、その下部には角礫が充填されている状況であった。北側のコンクリート壁に沿って管路が西方向に屈曲するが、管路には既設の水道管が埋設されており、水道管の上面は地表下0.52mを測る。管路屈曲部から西へ2.25mで北側のコンクリート壁の高さが下がっており、過去の工事などで上部は撤去された可能性がある。既設水道管が存在することから、東西方向の管路には遺構などは残存しないと判断した。また、実験・研究棟に接する北側、東側および南側管路の掘削部分については、既設管があること、また余掘り範囲内と判断して立会いは行わなかつた。

以上のことから、実験・研究棟に近い部分においては、地表下約0.5mで水道管や電気ケーブルなどが埋設、またコンクリート面が残存することが明らかとなった。コンクリート面

には鉄筋を含むことから、昭和 42 年建設の現在の実験・研究棟以前の施設、昭和 22 年に建設された木造平屋建庁舎に関わる基礎の一部の可能性がある。また、さらに下層の堆積については、的場花壇に関連する遺構や遺物が検出される可能性があるため、今後も開発に伴う掘削工事に立ち会って調査を継続する必要がある。

三原地区（三原市）

1) (三原) 法面勾配改良工事

所在地 三原市館町二丁目 6 番 1 号

調査期間 2022（令和 4）年 8 月 2 日

調査面積 約 40 m²

調査者 石丸恵利子

調査概要 三原地区において、小学校校舎北側から体育館東側にかけてのウサギ小屋や花壇のある一段高い場所から下方の法面勾配を改良する工事が行われた。工作物の撤去および法面調整時に立会って地下の堆積の状態を確認した（第 16 図の 1）。体育館東側法面については、南北幅約 4m の範囲で最上段のコンクリートと角礫の石垣状工作物を重機で撤去し、法面調整の際に邪魔になる角礫を数カ所取り除いた。残存する法面は土嚢袋が積まれた部分もあり、掘削範囲の一部はすでに改変が行われていることを確認した。近くに生えた樹木の根も広範囲に広がっており、土嚢袋ではない堆積部分においても、遺物・遺構については確認されなかった。

小学校校舎北側の東西幅約 14m についても、堆積を確認したところ全面に土留めの金網が張られ、またその内部は大部分が土嚢袋を積み重ねた状態であった。掘削は土嚢袋の範囲にとどまり、その下層には掘削の影響が及ばないことから、下層の堆積状況を確認することはできなかった。遺物も確認されなかった。

以上のことから、本調査区の法面部分はすべて土嚢で土留めされた近年の堆積層であったため、その下層については、一段高い位置のウサギ小屋や花壇周辺部分の掘削の機会に確認することが望まれる。

2) (三原) 警備員室空調用電源等取設工事

所在地 三原市館町二丁目 6 番 1 号

調査期間 2023（令和 5）年 3 月 22 日

調査面積 約 10 m²

調査者 石丸恵利子



第 16 図 2022 年度三原地区立会調査位置図 (縮尺 1 : 2,500)
 (1. 法面勾配改良地点、2. 警備員室空調用電源等取設地点)



21-1 体育館東側整備前の状況 (西より)



21-2 体育館東側コンクリート・石垣
 撤去後の状況 (南西より)

写真 21 (三原) 法面勾配改良工事に伴う立会調査



22-1 掘削風景（北東より）



22-2 体育館東側コンクリート・石垣
撤去後の状況（南西より）



22-3 東隅北壁堆積状況（南より）



22-4 東側南壁堆積状況（北東より）

写真 22（三原）警備員室空調用電源等取設工事に伴う立会調査

調査概要 校門西隅にある警備員室に空調を設置するための電源取設にともなう掘削工事が行われた（第 16 図の 2、写真 22-1）。校門部分地下には門扉のコンクリート基礎と排水溝が構築されており、その間（切り取りは門扉基礎のコンクリート）をカッターで切断して撤去したのちに地下の掘削を行った。幅約 0.3m、深さ 0.7m で、長さ約 14m の範囲を掘削した。東端は、校門レール基礎のコンクリートに沿って約 1.7m 南下し、さらに西方に約 1.3m 折り返した範囲を、深さ約 0.3m まで手掘りで掘削した（写真 22-2）。東側門柱から東方の掘削部分は植え込みに含まれ、北壁面での層序は地表下 0.2 から 0.3m が暗い黄褐色の植え込み砂質層でその下層に角礫が多く認められた。更に下層はやや固く締まった黄褐色土の堆積層が 0.4 から 0.5m の厚さで確認できた（写真 22-3）。東隅から約 4.5m の部分に北東から南西方向に雨水のコンクリート製フューム管が埋設されており、現在も使用され

ており撤去が不可であったためその部分についてはその下方に電気ケーブルを通すこととなったが、掘削は地表下 0.7m の範囲内にとどまったため、それ以上の掘削は行われなかった。門扉のコンクリート基礎は厚さ 0.2m、その下方にはバラスが敷かれ、その下の埋土にはこぶし大の円礫や瓦小片を含んだが、それ以外の遺物や遺構は確認されなかった（写真 22-4）。西端にはガス管が地表下 0.6m の部分に南北方向に埋設されており、それ以上の掘削は行われなかった（電気ケーブルはその上を通す）。また周辺の埋土には錆びついた金属片なども含まれており、整地層と考えられた。

また、西端の運動場部分も東端の植栽部と同様に GL-0.3m 程度を手掘りで掘削するものであったが、2017 年度の中学校屋外散水栓給水管修繕工事の際、本調査区の北側運動場部分を地表下 0.5 から 0.8m 掘削したが、その範囲はすべて運動場の整地層であることを確認していることから、同様の堆積と判断して、この部分については立会を行わなかった。

以上のことから、本調査での掘削範囲は、門扉の基礎や排水溝設置の際にすでに掘削が行われた範囲内および校門周辺の整地層の範囲と考えられる。遺物・遺構は確認されなかった。なお、明治 43 年の三原女子師範学校開校時に撮影された写真を見ると、当時から道路面より校門は高い場所に位置しており、当地の土地利用の変遷を知るうえでも、校地縁辺での掘削工事においても引き続き土壌の堆積状況に注視していく必要がある。

3. 小結

2022 年度は、東広島地区で試掘・立会調査を、霞・東千田・三原・竹原の各地区において、立会調査を行った。東広島地区では、ががら山での調査機器設置が完了した。当地点には、鏡山城跡（ががら地区）という山城跡があり、山頂部以外にも遺跡の範囲が広がっている。現況が山林であることから、遺跡としての一般の認識は薄いものと考えられ、開発の際の遺跡保護に一層の注意が必要であると考えられる。霞地区では、小規模な掘削ではあるものの、陸軍兵器補給廠関連の遺構が検出された。図書館南側では、性格は不明ではあるものの、器補給廠に関連すると考えられる鉄・コンクリート製の遺構が確認できた。断片的な情報ではあるが、引き続き詳細に記録するよう努める。東千田地区では、講義棟の新営工事が完了した。当該地点では、移転前の広島大学のグラウンドが広がっていたと考えられる。グラウンド面以下では、戦後と考えられる暗渠状遺構のほか、水路に関連すると考えられる石垣遺構も確認された。過去の航空写真でみられるような水田などに関連する可能性がある。東千田地区では、北西部の駐輪場付近に高等師範学校時代の建物基礎などの遺構が残存しているため、保護していけるよう開発計画について注視していく

必要がある。竹原地区では、これまでに近世の遺構は検出されているが、近現代の遺構が残されていると考えられる。三原地区は周知の遺跡の範囲内となっており、三原市教育委員会と情報共有しつつ、遺構の保全に努めたい。

以上、広島大学の各地区の調査報告を行った。東広島地区・霞地区・東千田地区では、講義棟など新営工事が続いていたが、今年度で掘削に伴う調査は完了している。このうち霞地区では、開発行為が継続して行われており、今後も引き続き調査が必要となる。